



キャラバンメイト「ロバの会」通信

Vol.47

R7.12月

認知症サポーターキャラバン



こんにちは、今回は筒渕が担当します。
今回も95歳の母とのエピソードをもとに、本当はどうしたら良かったのか私なりに気づいた事を書きます。
題して、「親にうまく伝えるには」
～どう言えば理解してもらえたのかな～

7月のある日一

遠方に住む兄家族が会いに来ることになったと母に伝えました。

「〇日に来るからね」朝食中の母は、



そうかい、じゃあ、子どもが4人だね、
お金を用意しておかないと...。



うん？子ども4人？兄夫婦と娘と孫2人合わせて5人だよね？

娘と孫のことだったとしても3人だし・・・4人って誰のこと？



何回か母と押し問答をして、ようやく「兄の孫2人と私の孫2人合わせて4人」を指していたのだとわかりました。私には別に2人の孫があり、母がその2人を忘れてしまっていたと思わなかったので、なかなか話がかみ合わなかったというわけです。

そんなこんなで、母も疲れたのか「パンを食べたから朝ごはんはいらない」と、部屋に入って行きました。もしかしたら、わかってくれない私に腹を立てたのかもしれません。手つかずの朝食を見ながら、『話しかけるのは食事中でない時にするべきだ』と反省した私でした。



「理解・判断力について」

認知症になると、周囲から受け取る情報を選択して行動にうつすことが難しくなります。記憶力の低下も加わって、以前のようには、素早くものごとを理解・判断することができなくなります。



理解・判断力の低下と対応のポイント

1. 考えるスピードがゆっくりになります

⇒ 「**急がせない**」

時間をかければ自分なりの結論に至ることがあります

2. 同時に二つ以上のことを行うことがむずかしくなります

⇒ 「**シンプルに伝える**」

一度に処理できる情報の量が減ります。念を押そうと長々説明すると、ますます混乱します。必要な話はシンプルに表現することが重要！

3. いつもと違うできごとが起こると混乱しやすくなります

⇒ 「**補い、守る**」

身内のお葬式や、家族の入院で混乱したことから認知症が発覚する場合があります。予想外のことが起こっても「**補い、守ってくれる人**」がいれば日常生活は継続できます。

また別の日の母の話ですが—

「明日、お寺さんが〇時に来るよ」とメモ書きを渡しました。翌日になり、「今日、お寺さんが〇時に来るからね」と言うと、『**明日でしょ**』と言う母。一瞬ドキッとして慌てて「昨日メモを渡して説明したでしょ」と言う私。メモを見ながら『**ほら、明日って書いてあるでしょ！**』と母。私も思わず「昨日の明日は今日は今日でしょ！」と強く答えてしまいました。

本人は私が何を言っているのかわからないようでしたが…

その時、気づいたのです。

私達が気にしないで使っている「**明日**」という言葉。

おそらく、口頭で伝えていれば、母は自分でカレンダーに

「〇月〇日〇時、お寺さんがお参りに来る」と書き、

自分で何度も確認したでしょう。紙に書いてあげた方が、耳が遠くなった母には良いかと、気を利かせたつもりでしたが、余計に混乱させてしまいました。



ロバの会勉強会 偶数月第4（火）18時30分～ハピネス内・教養会議室

12月23日のテーマは「新しい認知症観にアップデートしよう」です。

【お問い合わせ】キャラバン・ロバの会

事務局 地域包括支援センター



5-1165

杉之下真由美（代表）、杉田鈴子、坂入奈緒美、

竹本礼子、筒淵恵子、寺田律子、板橋亜矢



認知症サポートキャラバン